

千葉県協同組合提携推進協議会 30 周年記念事業として福島県の視察をおこないました！

10月25日（木）、26日（金）の2日間で千葉県協同組合提携推進協議会 30周年記念事業として、福島県の視察をおこないました。今回の視察は東日本大震災から8年目となり、林業、農業、漁業の各分野の復興状況を学び、被災地への支援を考える機会として実施しました。また、各団体の更なる交流促進もおこなわれました。

※千葉県協同組合提携推進協議会とは千葉県内の協同組合の提携を推進することにより、組合員の生活の向上や協同組合の理解促進を目的に設立されました。「農業協同組合」「漁業協同組合」「森林組合」「生活協同組合」で構成しています。

1. 林業の状況 『株式会社 磐城高箸』



高橋社長から割り箸の原料について説明を受けました。地元産の杉にこだわった割り箸づくりをおこなっていることを聞きました。



丸太が細く切られ、乾燥させています。森を豊かにするために間伐材を有効に利用することで循環型の森林保護となっています。



割り箸の焼き印についてお話を聞きました。表面に細かい凹凸があるので焼き印を入れることに変、苦労したということでした。



実際に割り箸に焼き印を入れた状態です。焼き印で他企業とのコラボも実現しているということでした。



割り箸の製造行程で発生したチップを使用して『眠り杉枕』を開発されています。



株式会社磐城高箸では地元の廃校を工場として使用する計画を進めています。

2. 漁業の状況 『小名浜魚市場といわきら・ら・ミュウ』



小名浜魚市場の少量多品種の魚を選別⇒荷捌⇒搬出をする場所です。試験操業中ですが漁獲量は震災前10年平均の約13%ということでした。



小名浜魚市場のカツオなどの大きな魚を漁船から水揚げし、選別・氷詰めをする場所です。写真左側はすぐに岸壁となっていて漁船から直接、魚を搬入できます。



小名浜魚市場では水揚げされた各々の魚種について放射能検査を実施しています。上の写真は下処理室の様子です。



ホワイトボードで自主検査をする魚種を管理しています。原発事故から7年が経過し、海産魚介類の放射能はほぼ不検出となっています。



下処理をした魚は放射能検査を行います。福島県漁連では自主基準を50 Bq/kg、25 Bq/kgを超えた場合には県で精密検査を行います。



小名浜魚市場の向いにある『いわき・ら・ら・ミュウ』は海と魚のフードテーマパークになっています。その中に震災展があり、写真は小学生が書いたメッセージです。

3. 農業の状況 『ワンダーファーム』



ワンダーファームはトマトのテーマパークです。森のマルシェ（直売所・カフェ）、森のキッチン（レストラン）、森のめぐり工房（加工所）が併設されていてトマト狩りも体験できます。上の写真は森のめぐり工房の様子で直売所で販売しているトマトジュースを製造しています。衛生管理がきちんと行われていました。



上記の写真は『JRとまとランドいわきファーム』の中の様子です。最新の植物工場で栽培される各種トマトを自分で収穫できます。たくさんの種類のトマトが最新の設備で栽培されていました。